

第7回ホームホスピス全国合同研修会in仙台

2018年12月1、2日

TKP仙台駅北

開催日	参加者	参加者内訳			アンケート（複数回答あり）																											
					回答数	ホームホスピス協会		ホームホスピス		職 種														開催をどのように知ったか								
		会員	会員 スタッフ	非会員		会員	非会員	勤務	それ以外	介護職	医師	看護師	保健師	薬剤師	ケアマネ	MSW	講師	事務	管理 栄養士	僧侶	学生	助産師	ボランティア	その他	HHJ HP	HHJ より お知らせ	SNS	知人	近くの HHより	病院	その他	
12月1日	297	89	40	168	135	51	90	37	99	30	6	69	3	2	19	6	1	1	1	1	1	1	0	4	10	49	4	19	46	19	10	研修会 福島市在宅医療ケア連携協議 会、社会福祉士会 など
12月2日	339	89	37	213	147	39	105	33	109	23	6	73	8	1	16	4	0	3	0	0	1	0	1	12	11	27	4	23	55	15	19	研修会（日本財団、仙台、福 島、竹澤Dr、奥田先生） など

【感想】

- 12月1日
- ・ 支援という言葉に感じていた違和感が「家族幻想と社会的相続」という部分で腑に落ちた。
 - ・ 「家族機能の社会化」超高齢社会となった我が国において、重要な課題と思われ、とても考えさせられた。ホームレス支援とホームホスピスは、「制度にない制度」という点では似ていると思った。
 - ・ 奥田氏の「なんちゃって家族」が心に残った。行動されている飯田氏、立岡氏、田中氏の言葉から力をもらった。
 - ・ 奥田氏の人生観、倫理観、使命感に触れ、大変感銘を受けた。ホームレスの方や生活困窮者の支援の法的なことが知れてよかった。
 - ・ 家族という枠組みがなくても、支え合える社会を作っていきたいと思っているので、参考になった。愛基さんの父親ということでも興味深かった。
 - ・ ハウスはあってもホームがない人が実はいるのだと思った。ホーム機能の重要さがわかった。
 - ・ 「地域で生きる 地域を変える」というテーマにおいて、このシンポジウムの発想は新しいと思った。
 - ・ シンポジウムもっと聞きたかった。若者たちがそれぞれ取り組み、堂々と挑戦していることに力強さを感じた。
 - ・ 震災後、大渡市での居場所ハウス、田中さんの活動にとっても興味を持った。HHを作りたい想いと地域の方と共に過ごす場を作りたいと感じた。
 - ・ 飯田さんのケア・形のないものをパッケージして見せる、デザインするのは医療福祉ではかけていると思うので、なるほどと思った。異業種、分野とどんどん関わっていくべき。越境する力を育てたい。
 - ・ 飯田さんが企業と福祉、両輪で歩まれ安定経営を感じた。
HHは、地域を耕す活動をしますが、飯田氏のように山林資源の活用や農業もまた「地域を耕す」活動なのだった。
 - ・ 介護、福祉とは異なるジャンルでご活躍されている方の話を聴けて良かった。
 - ・ 各自での活躍の話が面白く、起業のことなど勉強になった。様々な角度から地域活動をしている人たちの話は新鮮。普段自分の分野しか考えていなかった視野の狭さに気付いた。
 - ・ NPOなどで実際に活躍されている方の話が聞けたことは貴重。制度の中だけで人が最期を迎えるということは正直限界を感じており、制度を利用しつつ様々なサポートの利用や提供が可能になる世の中になれば。
 - ・ 講演された方がみなさん生き生きと活動されていることが成功の秘訣だと思った。
 - ・ 制度にない制度...これまで表面化されなかったところが表面化されてきたことはうれしく思う。
 - ・ 看護の世界でしか生きていないので、様々な分野の方の思いを聞いて、世の中を少し見ることができて嬉しかった。

- ・ 講演を聴いて、時代はどんどん変化していることを実感。益々勉強をしていかなければいけないと気付かされた。
- ・ 「人として」平等にかかわることができる人間でありたいと思った。これから先を考えるととても大切な時間を過ごすことができた。
- ・ 包括に勤務していて、求められることが多く、押しつぶされそうになりますが、HHなど頑張られている方々の声（想い）を知り、とても良かった。
- ・ 考え方が大きく変わった研修だった。地域でできること、地域づくりについてのイメージが少しずつ湧いてきた。
- ・ 柔軟な発想と多様な仲間を増やしていくことの大切さを感じた。
- ・ 「伴走」看護の現場でも寄り添い傾聴する姿勢は大切なことであることを再認識。
- ・ 社会的相続継承の話は、とても興味深かった。色々な人生の壁にぶつかった方は良い人生の勉強をして強くなっていて素晴らしい。
- ・ 私の子どもは知的障害で小～高校までいじめにあい、命にかかわるくらいにつらい経験をしたが、親子共々今では人生の良い勉強をし、無駄ではなかったと思っている。どんな困難でも逃げないで立ち向かっていける。今日は改めて人生にとって良い話を聴かせていただいた。来てよかった。
- ・ 「最後は誰が看取ってくれるか」昨日、在宅から病院搬送された方がおり、引きこもりの息子さんが在宅介護されていたが、病院での最期に行かないと言われ、担当ケアマネが呼ばれるということがあり、考えさせられる内容だった。
- ・ 前に進む勇気をもらえた気がする。地域の中で何ができるか、ACPも含めて地域、市民、コミュニティの中で考えていきたい。
- ・ このような内容を一般市民にどのような手段で伝えていけばよいのかが課題だと思った。
- ・ 明るく福祉としての支援を民間の力でやっていることに感動。行政関係の人に聞いてほしい。
- ・ 自分に何ができるか考える機会になればと参加。お話を聴いて、何が始められるかイメージできた。
- ・ 病院という枠の中で仕事をしていると考え方が小さくなっているなど感じた。もっと外へ大きく視野を広めていかないと緩和ケア、在宅ケアは語れないと実感。
- ・ 普段、HHとは対極の現場で働き、がっかりすることも多い日々だったので、地域へ在宅での明るい展望に希望をいただくことができた。病院という制度のしがらみの中でも「楽しく」仕事が出えるように職員の意識だけでも少しずつ変革出来たらいいと思う。
- ・ HHは、地域支援そのもの。地域と共に支えあう形をこれから地域住民と地域にかかわる人たちと一緒に考え、取り組んでいくことを考える機会になった。
- ・ ご家族の話を聴いて、私たちの仕事の意味を感じながら日々を大切にしたいと思った。
- ・ ご家族の話よかった。家族を巻き込んで（何かやってくれという意味でなく）一緒に生活を見守り、最期の時を皆で迎えたいと改めて思った。
- ・ 伊藤さんのお話は、とても心に響いた。若い方からどんどんHHの良さを発信していただきたい。
- ・ 若いご遺族からの話は、いのちがつながれていることを実感。
- ・ HHをもっと広げていくためには、皆が生と死、別れや喪失について考える土壌が必要だと思った。僧居たことに少しでも関わり、地域に暮らす人々が困らないように過ごせたらと思った。
- ・ HHの現状、家族の話から、理解が広がることを望んでいる。
- ・ HHの良い面、悪い面色々あるのだと思った。これから在宅と病院の中間の看取りのための場所が必要。全く赤の他人の方と人生最後の締めくくりに立ち会えることは貴重な時間だと思う。
- ・ HHへの志をしっかり持ち、何をしたいのか、相手にしっかり伝えていける活動を行っていけるようにしたい。
- ・ 病院勤務のため、HHの実際がよくわからなかったが、研修会によって様子が分かり、自分も将来このような仕事ができたらと思った。
- ・ 今後の日本においてHHの必要性、才能性を改めて感じた、若者としてムーブメントを起こしていきたいと思った。
- ・ HHが東北にも多々あったのにびっくり。もっと増えていくことを願います。
- ・ HHを作りたくて参加。色々課題はあるが、必要とされている方のために絶対作りたい。
- ・ 東日本のHHについて具体的に知ることができてよかった。岩手県にもHHができたらいいな。
- ・ 東日本支部の皆様のご活躍が良かった。大会開催にご尽力ありがとうございました。
- ・ やり手の人たちが頭のいい人たちが様々なことに挑戦されている。私たちにはそのスキルや頭脳がなく、悩ましい。スッキリ感がなかった。（HH勤務 看護師）

12月2日

- ・ 法人の活動でしっかり利益を出すことの大切さを改めて考えさせられた。HH開設から9か月経つが、赤字から脱せず、解決策も見いだせていない。(HH勤務 介護職)
- ・ 鎌田先生の話は、生きたお話講演であった。「いのちの輝き」を支えるケアを継続してくださっていることに感謝。
- ・ その人のやり残したことを聞き出すこと思い残したことがないかを夫の死を通して聞き出すことができなかったことが心残り。
- ・ 自己決定の重要性は、実例を交えて興味深かった。話の後半、音楽を流していただき、リラックスして見ることができた。
- ・ 病だけを見るのではない方針は、素晴らしい。感動する場面が多い記念講演だった。
- ・ あったかいケアと地域とのかかわりを実践したいと思った。
- ・ 鎌田先生の話をもた聞きたい。患者さんの夢や希望に少しでも手を差し伸べられるような人になって、かかわっていきたい。
- ・ 著書を読んでいたので、より深く理解できた。鎌田先生のお話は、わかりやすくオーラがあった。
- ・ 鎌田先生の話が聞きたくて参加。活動が多岐にわたり全体像が掴みにくくなってきたが、今回ホスピスケアの現場を長く続けておられる話を熱く語っていただき、やはり全ての活動の芯なのだと感じた。
- ・ 死について普通に語り合える社会・地域づくり、国づくり、一人一人が真剣に考えるべき時期が来たのではないかと思った。
- ・ 鎌田先生の話に感動。言葉をいっぱい書き留めた。何度も読み返して活動したい。
- ・ 念願だった鎌田先生の話が聞けて感動。在宅や緩和ケアを支えるスタッフの息抜きという視点は、後回しにされやすいのですが、一呼吸置くきっかけになった。
- ・ 鈴木先生の誠意さが伝わってきた。
- ・ 鈴木先生のお話は、現実の厳しさを改めて知ることができ、その中で生活している住民・医療者の大変さを知ることができた。
- ・ 今の地域の課題と立場から、どんな支援をしていくのかヒントをいただいた。
- ・ 鈴木先生の話聴いて、当時のことをいろいろ思い出した。
- ・ 福島の現状について気になりながらも、自分から調べたりすることもなく今日まで来てしまっていた。大きな被害を受けた福島にも今後も関心を持ち続けたい。
- ・ 災害の多い昨今、自分たちの役割を考える機会になった。
- ・ 介護医療の国の動きをしっかりと説明していただき、理解することができた。
- ・ 「人生最終段階における医療の決定プロセスガイドライン」に医療・ケアチームの対象に介護従事者が含まれるように明確化されたことを知り、うれしく思った。
- ・ 人生の最後にかかわるものとして、また超高齢多死社会を支えていくものとして、とても大切な話を聴くことができた。
- ・ 「人生会議」を本人・家族・地域の間で実践していくうえで、特に地域の方で元気なうちから実践していこうと思った。
- ・ ACPについて他の人に説明できそうな気がします。
- ・ ACPについて詳しく聞くことができ、勉強になった。どうしてもツールを用いてチェック的な方法と考えてしまいがちだが、本人と家族にとってより良いこと、願いや楽しみを大事にしていきたい。
- ・ 次のステップとして、現場にどのように取り入れるのか、具体的な意見がうかがえたらよかった。
- ・ 「意思決定支援」について分かりやすかった。
- ・ 一般の急性期病院にACPの概念をどう落とし込むのか考えさせられた。患者・家族への問題提起のみならず、医療者への啓発が必要(むしろこちらが先か)と感じた。
- ・ 清水先生の話をもた最後まで聞きたかった。
- ・ HHの存在意義として、日々の実践の中に自然な形で人生会議を行っていったらと思う。
- ・ “見ている事象が同じであって、見る角度が違う”立場の話をも短い時間の中にたくさん聞くことができた。
- ・ ご本人の望みを支えられるような仕事であるよう日々努めていきたい。
- ・ 地域での看取りを支える仲間として皆さんと共に歩んでいきたい。

- ・ 死生観の個別性を重んじるサポートをしていきたい。
- ・ 盛りだくさん過ぎて整理に時間がかかりそう。HH開設準備を粛々と進めてまいります。
- ・ 利用者やご家族が自発的に選び、決められるようなかわり方の大切さを感じた。そこに至るまでの材料としての情報や日々の生活・介護からの経験のお手伝いできればと思った。
- ・ 医療に全く関係のない私でも理解できて、大変良かった。
- ・ とても学びの多い研修会だった。自分らしく生きるように支えられるような支援者になりたい。
- ・ サ高住勤務。本人が望んだ自宅（サ高住）で最期まで生活することをケアチームを作ってサポートしたが、EOLのケアに不安を持ち受講。本人の意思確認、家族、チームの話し合いや合意ができる支援（プロセス）の重要性を感じた。
- ・ 東北での開催に感謝。
- ・ メジャーな講師陣で内容も分かりやすかった。
- ・ 次回の広島会場へ行きたいと思う内容だった（非会員）
- ・ 他で聴けない内容で参加して本当に良かった。
- ・ 感動的な研修になった。
- ・ 講師の先生方がとても素晴らしい。

- ・ HHについてのテーマがもう少し多くてもよかった。
- ・ もう少し時間に余裕があったらよかった。
- ・ 今回の講師が男性ばかりなのが気になった。窮屈。
- ・ イビキをかいて眠っている方、スマホをいじっている方が多く残念。
- ・ 机がなくてメモしづらい。
- ・ 全部イスのみにして余裕をもってほしかった。
- ・ 会場が狭かった。トイレが足りない。時間配分が悪い。昼食時間は弁当注文していない人もいるため、削ってほしくなかった。
- ・ 1日で二日分こなしている感じ。もっと1つのことで時間が欲しい。（分科会でも）
- ・ 内容を詰め込みすぎ。内容を減らしてじっくりが希望。
- ・ パーソナルスペースが全く取れない。通路が狭い。
- ・ クロックがあったらよかった。
- ・ 弁当込みの参加費にしてほしかった（一般の方3,500円）
- ・ 同じ金額で机ありと無しがあるのが気になった。



奥田知志氏



シンポジウム



鎌田實氏



清水哲郎氏